

武漢市週間記事報告第7号<2007.11>

2007年11月12日付け『新華社』より

南車集団：武漢に貨車製造会社設立 北米に輸出も検討

中国情報局によると、中国南方機車工業集团公司（中国南車集団）参加の鉄道貨物車輛メーカー数社の再編で発足した長江車輛有限公司が12日に開業した。貨物車輛の年産能力は1.1万台を見込み、アジア最大規模となる。

新会社は湖北省武漢市の江夏区大橋新区内に投資額30億元で設立。貨物・旅客車輛の製造、修理を行うとともに、研究開発センターとしても機能する。さらに製品の一部は北米市場にも輸出する予定である。

中国での鉄道貨物車輛の新規需要は2006年から2010年まで年間3万2000代が見込まれている。中国南車集団はこれを機に、華南、華北地域に展開する工場を中核会社の株洲電力機車有限公司を中心に再編、新会社を設立した。

EDS：武漢市にサービスセンター設立

ITアウトソーシング大手の米エレクトロニック・データ・システムズ（EDS）は8日、湖北省武漢市に中国初のグローバルサービスセンターを開設した。同センターは今後、欧米、日本、韓国の顧客を担当する。

EDSは世界500企業に選ばれる大型IT企業で、世界60カ国以上に顧客をもち、グローバルサービスセンターは、武漢市以外にインド、ハンガリー、アルゼンチンの3カ国に設置されている。

EDSのDavid Wirt副総裁兼大中華区総経理によると、2008年中に中国国内にさらに1か所、2000人規模のセンターを設立する計画があるという。現在武漢市のセンターには約300人が所属しているが、08年末には1400人まで拡充する予定で、さらに今後中国地区の従業員は5000人以上になるという。

05年時の世界のITアウトソーシング市場は3320億ドルだったが、2010年には4817.5億ドルに成長すると見込まれている。

SMI C 武漢工場、08年ようやく稼働

中国情報局のニュースによる、中国最大の半導体がファウンドリー（受託生産会社）である中芯国際集成電路製造有限公司（SMI C）が管理する武漢新芯集積電炉湯元孝司の半導体工場（胡鈔9省武漢市）で設備の搬入が始まった工場の建設には100億元が予定されているが、湖北省統計局によると、10

月中旬までの投資資金はわずか10.55億元で、実際工場が稼働し始めるのは早くても2008年の上半期になるとみられている。

同工場ではすでに従業員の採用が始まっているが、完成から半年経った今も設備は納入されておらず、武漢市東湖高新区の企業誘致担当者によると、現在は製造に必要な機械を選んでいる段階。また中芯国際によると日本のエルピーダメモリとのOEMの商談が進行中だという。しかし、現状では工場のテスト稼働が08年にずれ込むとみられている。

中芯国際のメモリーチップ業務は、第34半期(7-9月)に約4100万ドルの赤字を計上。業界のアナリストは、08年はメモリーチップ業界が持ち直さだろうと予測しているが、新工場も短期的には楽観視できないと警戒している。

しかしながら、ライバルの台湾積体電路製造有限公司との競争は優勢状態にあり、メモリー製造では奇夢達(Qimonda)と2年にわたる協力実績を持っているほか、10月には米Spancion社との提携で、65ナノメートルのフラッシュメモリ技術を手に入れた。成功のカギを握るのは、国際的メーカーからの大型注文が受注できるか否かにかかっているといえそう。

中国：一部都市でディーゼル油の供給不足深刻

全国工商連石油業商会は30日、福建省、福州市、湖北省・武漢市、広東省・広州市、深圳市など国内一部の都市で、ディーゼル油の供給不足が進んでいるとの報告をまとめた。国際原油価格が高騰するなか、中国石油化工(シノペック)と中国石油天然気(ペトロチャイナ)の2大石油会社が、傘下のガソリンスタンドへの供給確保を目的に、ディーゼル油の市場への卸売りをこれらの都市で停止したことが要因とみられる。

格地の民間のガソリンスタンドでは、ディーゼル油の販売量を車1台につき制限するなどの対応策をとっているが、ある大型トラック運転手は「2005年下半期のオイルショックが再来したようだ。」とため息を漏らす。